



福島県立たむら支援学校

自立活動の指導 実践例

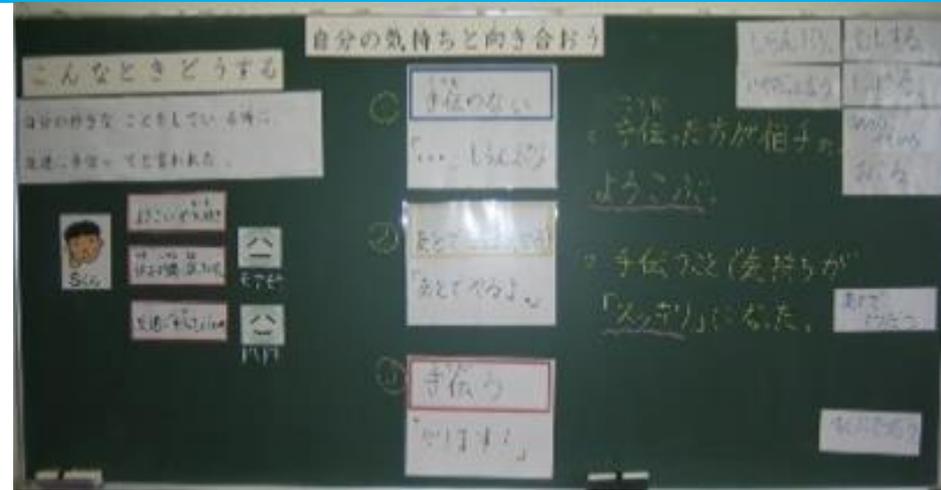
令和5年2月

自立活動の実践例①

『こんなときどうする？』

教師や友達と一緒に考える場面を設定し、自分が友達とトラブルになる原因や、友達とのよりよい関わり方に気付き、他者との適切なかかわり方について理解を深めることができるようにする。

○ 一斉指導で、課題を共有し、みんなで解決していく自立活動の指導例



【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

自立活動の実践例②

『どうすればよかった？』

合同学習で、友達とのトラブルやストレスを感じることもあった。学習を終え、自分の学級に戻ってきたときなどに、トラブルの原因は何か、どうすればうまくできそうか、などを確認する。確認したことを次の合同学習での友達とのやりとりにつなげていくことができるようにする



【自立活動の指導区分】

2 心理的な安定

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

- 集団での困難さを受け止めたり、うまくいく方法を確認したりする場を設ける。

自立活動の実践例③

持ちやすく、筆圧が弱くても書きやすいペンを活用することで、落ち着いてスムーズに字をなぞったり書いたりすることができることに気付き、自分から書きやすいペンを選択して、書くことに集中して取り組むことができるようになっていく。



【自立活動の指導区分】

2 心理的な安定

4 環境の把握

5 身体の動き

- 国語科の「書くこと」の指導と関連させた自立活動の指導例

自立活動の実践例④

『お盆運びゲーム』

お盆に食器をのせて、バランスをとりながら食器を落とさなないように歩き、次の友達に渡す、というゲーム形式の活動を通して、自分の身体に対する意識や概念、相手への意識を高めることができるようにする。



【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

4 環境の把握

5 身体の動き

○ 小集団で、ゲーム形式の活動を通して、それぞれの課題を解決していく自立活動の指導例

自立活動の実践例⑤



【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

○後ろの友達や次に取り組む友達にボールを渡す活動を通して、相手にとりやすく手渡すことや相手との距離感を意識すること、相手とのやりとりの楽しさを知りコミュニケーションの基礎的な力を高めていく。

自立活動の実践例⑥



【自立活動の指導区分】

4 環境の把握

5 身体の動き

○「ワニ」をハンマーで素早く叩くというゲーム性のある活動を通して、注意を持続させながら対象物に注目して、対象物の位置を意識して目と手の協応動作や敏捷性の向上を図ることができるようにする。

自立活動の実践例⑦



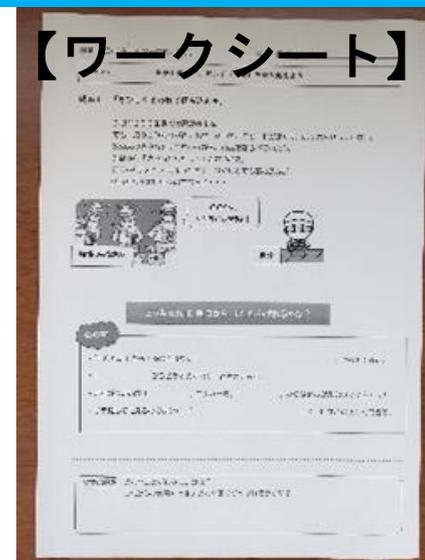
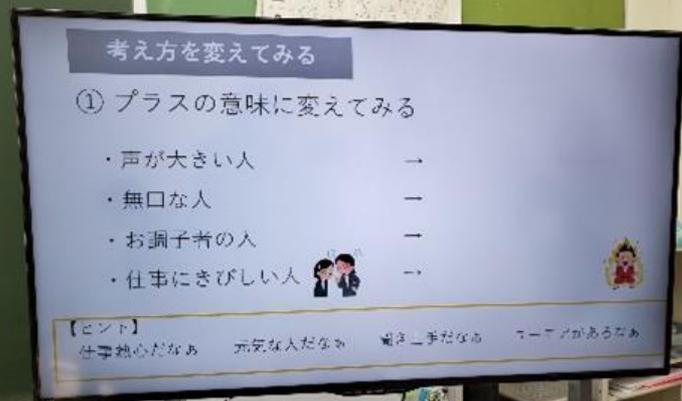
【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

しりとりによる「ことば遊び」を通して、単語カードと絵カードを結びつけて語彙を増やしたり、ことばのやりとりを楽しんだりして、他者とのかかわりの基礎やコミュニケーションの基礎的な能力を身に付けていくことができるようにしている。

自立活動の実践例⑧



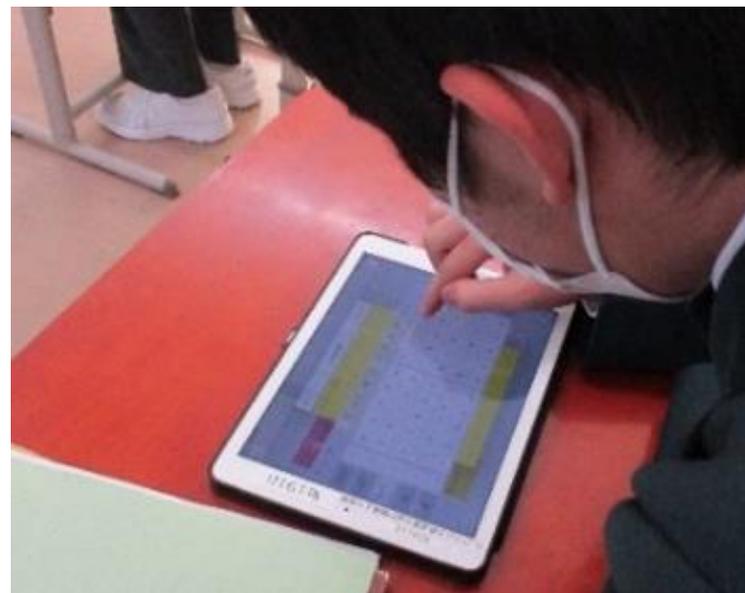
【自立活動の指導区分】

2 心理的な安定

3 人間関係の形成

○働く場面での自己の課題に向き合う学習を、自立活動の視点を取り上げて実践した。小さな失敗やつまずきに対して不安を強く感じる生徒に向けて、リフレーミングの視点をテーマとして取り入れて問題解決につなげていくようになる。

自立活動の実践例⑨



【自立活動の指導区分】

2 心理的な安定

6 コミュニケーション

○選択性緘黙で音声言語での意思の表出が困難な生徒が、アプリ「Jamboard」を使用して自分の考えを入力して、タイムリーに自分の意見を表出することで、周りの生徒と意見を共有することができるようにしている。

自立活動の実践例⑩



【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

○挨拶練習や発声練習を行い、声量、声色、声の速さや姿勢を意識できるようにする。問答形式でワークシートに問われていることを、自分の言葉で考え、整理し質問する側と答える側にわかれて行う。問答形式は2人1組になって行い、他の生徒は問答形式で感じたことを自分の言葉を用いて、良かった点、改善点を発表し、生かすことができるようにしている。

自立活動の実践例⑪

1つの活動を通して、子どもの指導目標に応じて働きかけを工夫している実践例



○「ビーズ通し」の活動を通して、注意を持続させながら対象物に注目してビーズをひもに通すこと【環境の把握】、対象物の位置を意識して目と手の協応動作を高めていくこと【身体の動き】、繰り返し手元の活動に落ち着いて取り組むことで、情緒の安定を図ること【心理的な安定】など、1つの活動を通して児童一人一人の目標達成に迫ることをねらって実践している。

自立活動の実践例⑫

授業の中で複数の活動を準備することで、
個に応じた指導目標の達成に向けて工夫している実践例



○活動①「電車リレー」の活動を通して、相手のペースに合わせることや、相手に声を掛けてやりとりをしながら活動することをねらいとしている。

【人間関係の形成】
【コミュニケーション】

○活動②「ラダーを使った両脚飛び」の活動を通して、目印に注目して両脚から着地するなど、状況を把握して適切に体を動かすことをねらいとしている。

【環境の把握】 【身体の動き】

自立活動の実践例⑬



【自立活動の指導区分】

3 人間関係の形成

6 コミュニケーション

○ビニールシートにボールをのせて2人で運ぶという活動を通して、相手を意識する、相手のペースに合わせる、友達と一緒に取り組むなど集団参加への基礎を培うことをねらいとしている。

また、一緒に取り組む友達に声をかけるなどして友達とのつながりを深めていくこともねらいとしている。

自立活動の実践例⑭



【自立活動の指導区分】

4 環境の把握

5 身体の動き

○提示された手のマークに合わせてタッチをしたり、テレビで示されたイラストと同じ動きをしたりする活動を通して、対象に注意を向けながら手足を動かす等の、注意の持続や視覚情報に合わせて行動を調整する力の育成をねらいとしている。

自立活動の実践例⑮



【自立活動の指導区分】

2 心理的な安定

4 環境の把握

5 身体の動き

○的あてゲームを通して、1つの的に注意を向けながら、腕を大きく振って玉を投げるといった注意の持続、目と手の協応をねらいとしている。また、ルールを理解しそれらに従って活動すること、負けた時の気持ちの調整といった状況を理解する力、行動を調整する力の育成をねらいとしている。